

2024年1月14日

## 中国代理事務所の動向とクライアントのコンフリクト

アジア特許情報研究会:伊藤徹男

### 1. はじめに

中国出願代理事務所については、その誕生から民営移管までの状況を「中国代理人事務所を評価する」として2012年に紹介し、その後2011年以降に急増した新興事務所についての状況を2016年に、そして、最新動向として2021年に紹介したのが前報です<sup>1)</sup>。

今回は、前回触れることのできなかつたその他の代理事務所の情報について断片的ですが紹介したいと思います。ここでも前回同様、代理事務所の「專利代理有限公司」などの法人格を省いて紹介しています。また、出願人国籍コードの欠落（筆頭出願人にしか付与されていない）の問題を除き、データ収集には支障のない台湾特許庁のGPSS(Global Patent Search System)を使用して解析しています<sup>2)</sup>。尚、ここで紹介する検証データは、2024年1月10日現在のものです。

### 2. 代理事務所名の変更

專利代理事務所名が変更になっているところがいくつかあります。現在確認できている以下の4社の出願推移（出願年基準）を示して確認してみました。表の上段が旧社名、下段が新社名です。社名だけで抽出すると欠落しますので代理事務所コードを使えば問題ありません。

いずれも2010年～2015年出願分から新社名に変更になっているようです。中国国际贸易促进委员会などは2020年公開分（2019年出願）まで旧社名で取り扱っているようです。

表1. 代理事務所名の変更

	コード	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
① 中国国际贸易促进委员会 中国贸促会專利商標	11038	9988	9639	9945	10734	10879	11042	10457	9564
		1	1	18	18	38	12	195	402
② 广州粤高專利 广州粤高專利商標	44102	1073	411	0	0	0	0	0	0
		77	1159	1933	2541	2903	3241	3467	4137
③ 隆天国际知识产权 隆天知识产权	72003	2209	1836	1969	2389	2559	1829	748	1
		8	25	61	61	142	849	1994	2601
④ 北京金信立方知识产权 北京金信知识产权	11225	881	830	881	1163	1139	730	327	0
		15	44	43	36	148	567	1188	1442

### 3. 新興専利事務所の取扱数が大きく減少

2011 年以降、その取扱数を大きく伸ばしてきた新興代理事務所の取扱数がこのところ大きく変化しています。いずれもその取扱数の 95% 以上は内国出願であり、外国出願人の取扱いほとんどありません。

新興代理事務所のすべてがその出願事務数を落としている訳でもありませんが、インターネット出願により取扱数を驚異的に伸ばしてきたとされる北京科億や安徽合肥华信などはかつて年間 10,000 件を超えていましたが、最近では 1,000 件にも満たない取扱い数となっています(表 2)。

その理由は不明ですが、2019 年の非正常出願取締りの影響でしょうか<sup>3)</sup>。

表 2. 新興代理事務所の取扱い推移 (公開特許)

公開年	北京科億	南京正联	安徽信拓	天津滨海	联瑞联丰	安徽合肥	苏州广正
2011	57	137	0	170	0	897	837
2012	433	1,433	426	825	123	2,541	3,972
2013	2,075	3,368	1,158	1,444	1,560	5,548	5,457
2014	6,443	4,320	2,766	1,750	2,078	12,883	5,208
2015	9,706	3,586	3,391	3,273	2,066	12,374	5,934
2016	10,242	4,516	3,799	5,997	3,100	10,739	6,331
2017	9,610	5,349	3,428	3,492	5,529	6,704	2,740
2018	9,406	7,021	1,000	2,767	4,417	2,612	2,944
2019	9,281	4,511	5	2,572	9,259	1,154	609
2020	5,927	3,010	0	650	5,892	877	464
2021	4,967	2,296	0	393	881	856	437
2022	786	1,985	0	169	128	529	257
2023	153	1,612	0	108	6	438	227

逆に、新興代理事務所の内、以下の 3 社は特許取扱数を急激に伸ばし、上位常連事務所に食い込んでいます。また、新興代理事務所は多くの実案案件も取扱い、特許より実案や意匠案件の取扱数が多いところもあります。

表 3. 特許取扱数を伸ばしている新興代理事務所

公開年	北京品源	同立钧成	广州嘉权
2016	7,776	4,095	3,853
2017	8,133	5,184	4,742
2018	9,498	5,401	9,469
2019	12,022	7,821	10,288
2020	14,309	8,674	9,347
2021	18,250	10,070	10,238
2022	19,002	11,118	11,507
2023	18,842	12,387	11,850

他方、従来からの取扱数上位代理事務所についてはさほど大きな変化はありません。北京康信が健闘し、中科專利が徐々に取扱数を落としているという状況です。ここでもグラフにするとその差は埋没してしまいますので2016年以降の扱い公開特許数を示しました。

上位代理事務所の多くは外国からの出願を扱い、実案の扱いは少ないようです。国内の取扱事務では扱い費用も安く、翻訳料も入らない実案などより外国出願人（クライアント）からの仕事を選んだ方が歩合がいいせいでしょうか。

表4. 上位代理事務所の扱い推移（公開特許）

公開年	北京集佳	北京康信	北京三友	中国贸促会	柳沈律師	中国專利	中科專利
2016	17,258	6,955	7,859	9,974	8,223	13,332	6,857
2017	20,626	8,419	8,623	9,977	8,676	14,260	7,159
2018	23,306	9,109	9,219	11,165	8,802	13,745	9,076
2019	27,181	9,497	10,564	12,100	9,497	13,233	10,642
2020	27,048	9,985	12,156	11,258	9,884	11,744	10,389
2021	28,081	10,500	12,893	11,725	11,422	11,819	10,379
2022	30,294	11,058	13,549	12,044	11,703	11,296	10,198
2023	27,928	13,042	11,923	11,585	10,913	10,369	9,888

参考までに北京品源を含む特許取扱数10社について、2023年の実案扱い数を示します。北京集佳では特許、実案併せて33,000件を超える案件を処理していることになります。すごい扱い量です。

表5. 2023年実案扱い数

北京集佳	北京康信	北京三友	中国贸促会	柳沈律師	中国專利	中科專利	北京品源	同立鈞成	广州嘉权
6,667	2,887	1,008	728	464	303	598	8,419	2,134	9,812

さらに、2010年、2016年、2022年公開特許数に対する日本のクライアント扱い数の比率推移を大雑把に表6に示しました。

中科專利、北京三友、中国贸促会が日本のクライアントに力を入れていることが窺えます。

表6. 日本のクライアント取扱い推移

	2010	2016	2022
北京集佳	27%	17%	10%
北京康信	11%	10%	13%
北京三友	39%	40%	27%
中国贸促会	28%	23%	22%
柳沈律师	29%	21%	18%
中国专利	15%	10%	9%
中科专利	45%	43%	33%
北京品源	0%	2%	3%
同立钧成	3%	9%	10%
广州嘉权	0%	0%	1%

#### 4. 代理事務所選択の参考情報

知了网(<http://www.izhiliao.com.cn/>)<sup>4)</sup>には、種々の観点から代理事務所を分析した情報が紹介されています。

- ・ 专利总量（特許・実案・意匠）の取扱数ランキング

<http://www.izhiliao.com.cn/agency/agencybyranks.aspx?t=0>

- ・ 人均代理量（代理人の数）

<http://www.izhiliao.com.cn/agency/agencybyranks.aspx?t=17>



図1. 知了网

## 5. 代理事務所の選択とコンフリクト確認

中国に出願するにあたり、代理事務所をどこにするかも重要な知財戦略の1つです。既に出願している自社の代理事務所を洗い直すことや新規出願に当たっては競合他社が同じ代理事務所を利用していないかどうか、競合他社と同じ事務所にするにしても事業分野でのコンフリクトはないか、当該事業の出願に長けているか、日本語（または英語）出願の中国語への翻訳は問題ないか、代理事務所の登録率や拒絶率はどうかなどを確認し、それらを把握した上で決めることも重要です。

2000年代半ばには翻訳された中国語が権利行使できないものであったりして、日本語（または英語）への逆翻訳での確認、ということが話題になりました。さすがにその問題は各社ともクリアできているものと思います。

ここでは1例を挙げて特定事業の代理事務所のコンフリクトを確認してみたいと思います。最近話題のレジスト分野における住友化学と富士フイルムについて見てみましょう。両社ともレジスト材料の出願を行なっています。

まずは、2022年に公開となった両社の出願と利用代理事務所について調べたのが表7です。

表7. 住友化学と富士フイルムの2022年公開特許分析

(住友化学)@PA and ID=2022	356 (富士胶片)@PA and ID=2022	1247
中科专利 11021	130 北京三友 11127	435
北京集佳 11227	67 中科专利 11021	403
金杜律师 11256	57 永新专利 72002	204
永新专利 72002	28 同立钧成 11205	166
中原信达 11219	21 北京博思佳 11415	18
隆天知识 72003	12 上海华诚 31300	5
中国贸促会 11038	10 中国贸促会 11038	4
北京三友 11127	10 中国专利 72001	4
上海华诚 31300	10 商专永信 11400	3
北京林达刘 11277	5 北京集佳 11227	2
隆安律师 11323	3 天昊联合 11112	1
柏杉松知识 11413	1 北京路浩 11002	1
中国专利 72001	1 上海专利 31100	1
北京康信 11240	1	

2022年公開特許では住友化学 356件、富士フイルム 1247件あり、それぞれ同じ色でマークした事務所がコンフリクトしています。

特定の事業分野ではどうでしょうか。レジストのフォトリソ(G03F)で検証したのが表8です。幸い、G03F分野でのコンフリクトはないようです。

表8. フォトリソ分野におけるコンフリクト

<u>住友(G03F*)@IC</u>	<u>35</u>	<u>富士(G03F*)@IC</u>	<u>112</u>
金杜律師 11256	19	中科專利 11021	107
北京集佳 11227	15	北京三友 11127	2
上海華誠 31300	1	同立鈎成 11205	2
		永新專利 72002	1

出願案件が登録あるいは拒絶になったかどうか、OAとのやり取りが多くなった原因など、出願担当者は関心あるでしょう。ここでの議論から外れますが、このような検証もしておくべきことと思います。

#### 参考文献

1)中国特許庁專利代理事務所データベース

<http://dlgl.cnipa.gov.cn/txnqueryAgencyOrg.do>

2)GPSS (Global Patent Search System)

<https://gpss4.tipo.gov.tw/>

3) 中国の非正常出願について(検索 Tips No. 34 2021)

[http://patentsearch.punyu.jp/asia/copy\\_patent.pdf](http://patentsearch.punyu.jp/asia/copy_patent.pdf)

中国特許情報の最新動向：非正常出願の実態(Japio Yearbook2022)

[https://japio.or.jp/00yearbook/files/2022book/22\\_2\\_04.pdf](https://japio.or.jp/00yearbook/files/2022book/22_2_04.pdf)

4)知了網

<http://www.izhiliao.com.cn/agency/agencybyranks.aspx?t=0>

2020年全国知識産権服務業統計調查報告

[https://www.cnipa.gov.cn/module/download/down.jsp?i\\_ID=155978&colID=88](https://www.cnipa.gov.cn/module/download/down.jsp?i_ID=155978&colID=88)

以上